

山の恵みに感謝し 木を余すところなく使い切る

植林から製材加工まで行う完全一貫生産体制
木質バイオマス発電などエネルギー転換も拡充

「木」を余すことなく「価値ある商品」へ



山の恵に感謝「植林祭」



2021年春に完成した、安定供給の要「戦略倉庫」

最新鋭設備を投資し、エンドユーザー視点を重視

1946年、現社長の祖父が「故郷の資源を活かして戦後復興を」と、串間市で創業したのが同社の始まりでした。造船材、住宅資材の供給で戦後の復興を支え、豊かな森林資源と広大な敷地を活用し、国内有数の製材工場に発展しました。

植林から伐採、搬出、製材加工までを行う完全一貫生産体制を構築し、宮崎の特産品「鉄杉」を主な原料として、一般製材品から人工乾燥材や集成材、そして全国的にも珍しい縦継材（フィンガージョイント）のための最新鋭設備群を有しています。

『吉田産業』では、単なる規模生産を誇るのではなく、地球環境にやさしく、高品質、低価格、安定供給を求めるエンドユーザー視点を意識して生産活動に力を注いでいます。

その一部を紹介すると・・・
① バイオマス発電所をグループ内に整備、木材資源を発電燃料及び木材乾燥熱源へと多面的に利用。

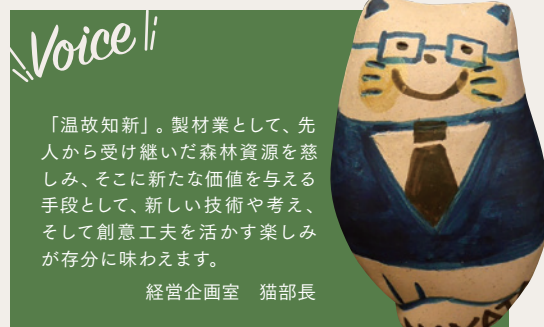
② 原木の集約効率／ロジスティックコストの低減及び、選別ストック機能の拡大を狙った構内の土場造成計画。

③ 木材製品の安定供給の要「戦略倉庫」の新設計画が進行中。

これらの設備投資計画は、前述の市場要求、要するにマーケティングとの完全連動を反映しています。

近年の取り組みとして、技能実習生への労働力依存から脱却し、省力化設備投資と人材育成強化、それに伴う全社新組織への改定を進めています。人材育成として、職種に応じたキャリアアップ支援を軸とした独自の教育プログラムを構築しています。また、それを継続的に先鋭化する人事評価制度と連動させて展開しています。

各地の先人たちが育んできた「林業」を尊重し、山の恵みに感謝し、木を余すことなく「価値ある商品」へ転換して提供することが、『吉田産業』の理念。そして、森林資源の循環を担う企業として、この想いを次世代に引き継いでいく必要があります。熟練技術者の技を伝承し、若い世代を育てていくことを大切に、新たなチャレンジを続けます。



「温故知新」。製材業として、先人から受け継いだ森林資源を慈しみ、そこに新たな価値を与える手段として、新しい技術や考え、そして創意工夫を活かす楽しみが存分に味わえます。

経営企画室 猫部長

ココがスゴイ！ POINT

2 point

時代変化への 対応力

少子高齢化、地方からの人口流出などの時代変化に対し、設備投資や諸社内制度改革を行いマッチングさせ続けます。

1 point

地球環境 & 地方創生貢献

CO2削減による地球環境保全、多様な地域人材活躍の場の提供、これらは同社のSDGs取り組みの柱です。

3 point

IT推進室を設置し 「IoT技術」を 業務に応用

ITを推進するため専任部署を設置。
①スマホ支給やLINEworks導入による業務合理化
②諸クラウドサービス活用による業務の高度化
などを次々と進めています。

当社の採用方針

年齢や性別、学歴に係わらず、キャリアや能力に応じた職種・組織役割をアレンジする、いわゆる適材適所を基本に社員視点での福利厚生充実化に取り組んでいます。具体的な採用に関する情報は是非、公式SNSをご覧ください。



「郷里を歩む仲間と共に、 地方の良さを最大限に活かしたい」

「地方には地方の良さがある。地元企業としてその良さを最大限に活かす努力を、我が社は惜しみません」。

昨今、若者の県外流出や全国比での賃金相場の低さなど、我々が住む宮崎県には課題もありますが、だからこそ我々の郷里に

ポジティブな要素の再発見や深掘り、そして新たな価値創造が我社の使命なのだと認識しています。

そしてそんな我社と共に郷里を歩む仲間の輪を広げていきたいと常に考え、行動し続けています。

代表取締役

吉田 利生

Yoshida Toshio

1969年生まれ 〔串間市出身〕

年長さんの子どもと、8歳になる迷い猫の子育ての日々。
座右の銘は「意志あれば道あり」。



30 吉田産業 株式会社

〔業種〕木材・木製品製造業

〒889-3215 日南市南郷町榎原甲2091

TEL.0987-74-1311 FAX.0987-74-1718

代 表：代表取締役 吉田 利生

資本金：3,300万円

社員数：82名(2021年5月末現在)

創業年：1946年



<http://www.yoshidasangyo.net/>